

「 “ 霊 ” が語らせるままに 」

使徒言行録 第2章 1節～11節

説 教 岡村 恒 牧師

水が入ったコップを流して逆さまにひっくり返すと空になります。それを蛇口の下に持って行って水を入れると、すぐにコップはいっぱいになって水があふれ出ます。ペンテコステの日に、弟子たちに起こったのは、こういう出来事でした。

私たちのキリスト教会は、聖霊を信じる教会です。主イエス・キリストの霊が生き生きと私たちに臨み、働いておられることを信じているのです。今日この後、一人の兄弟と一人の幼な子が頭から水を注がれるとき、罪の赦しが実現し、人が新しい命を生き始めることを信じて皆で喜び、祝います。今この瞬間にも主イエス・キリストの霊がこの場所に充満し、私たちに働きかけておられます。これは疑うことのできない事実です。

主イエス・キリストは、復活の後40日間、弟子たちと共におられましたが、やがて天に昇って行かれました。主イエスが復活され、弟子たちと一緒にいて下さった間はうれしく、また喜びにあふれ、安心をしていたはずです。しかし主が天に昇ってしまわれたあと、弟子たちは部屋の戸を閉ざして集まり、ただじっと待つ以外のことはできなかったのです。かけがえのない存在を天に送り、地上に残されると、そこにはほかのどんなものでも埋めることができない、大きな空虚が残りました。

五旬祭、かつてエジプトから導き出されたユダヤ人がシナイ山で十戒を与えられたことを記念する祭りのさなか、主イエス・キリストの弟子たちは大きな虚しさ・淋しさを抱えながら、悪意と敵意に満ちたエルサレムにとどまっていた。

主イエス・キリストが十字架で死んだのち、弟子たちの中にはエルサレムを脱出する者もいました。ルカによる福音書には、エマオという町に向かった弟子たちの話が出てきます。(ルカによる福音書 24章13節～35節) 復活なさった主イエス・キリストは彼らに歩み寄り、神の救いの約束が実現したことを悟らせました。弟子たちは本来なら、エルサレムを脱出して故郷に帰ってもよかったです。しかし彼らには、主イエスの命令がありました。「エルサレムから離れないで、かねてわたしから聞いていた父の

約束を待っているがよい。…あなたがたは間もなく聖霊によって、バプテスマを授けられるであろう。」(使徒行伝 1章4節～5節) この主イエスの命令と約束の言葉を握りしめて、弟子たちはエルサレムにとどまっていたのです。

部屋の戸を閉ざすように集まって10日目、ついに弟子たちに聖霊が注がれました。彼らは一緒に行動し、主イエスの言葉を一緒に聞き、奇蹟と一緒に体験しました。お互いが証人、目撃者となりました。私たちが主の日に集まって礼拝を守っているのも、同じ理由です。神様が私たちを召し集め、一緒に神のわざを経験させ、目撃させて下さるために礼拝が用意され、私たちは集められています。弟子たちは聖霊に満たされ、霊が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話し始めました。神が私たちの救いのためにどれほど大きなわざを実現してくださったか、このことだけを証しし始めたのです。これが、キリスト教会の誕生日の物語です。キリスト教会は、神によって集められた人々に聖霊が注がれ、人間の口から神の言葉が語られる場所です。

今日、世界中で、キリストの教会が教会の誕生日を喜び祝っています。ちょうど水を全部こぼしたコップのようだった弟子たちに、あの日聖霊が注がれ、弟子たちは一杯に満たされました。聖霊が私たちを満たしてあふれ出る時、神ご自身が働いて、私たちをお用いくださいます。これがペンテコステ以来、今日まで世界中で起きていることです。洗礼を受けることは、罪人が葬られ、新しく生まれることを意味します。今日も一人の人が、一人の幼な子が、神の子となります。神の言葉を皆で一緒に聞いて、神の偉大なわざが真実であり、確かに人に新しい命を与えて下さることを、私たちは今日も一緒に目撃し、その証人となります。

私たちは目に見えるものや手で触れることができるものに振り回されてしまいます。しかし聖霊なる神は変わることはありません。私たちには、このお方に自分自身をお委ねしながら、自らに託された地上の歩みを精一杯に、主をほめたたえながら歩むことが許されています。ペンテコステ、それは私たち一人一人が聖霊によって新しくされた日、新しく歩み出す日です。

(記 説教要約奉仕者)